

運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2021年 4月26日(月)	
参 加 者 (意見照会)	議 題
利用者 0名	① 行事報告 ② 行事予定 ③ 意見照会 ④ 身体拘束適正化検討委員会 ⑤ その他
利用者家族 1名	
地域住民の代表者 0名	
市職員 1名	
地域包括支援センター職員 1名	
事業所 0名	
会 議 録	
<p>2021年4月26日に行う予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止のため、書面にて意見照会をおこないました。</p> <p>① 行事報告</p> <p>1号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月3日 ひなまつりのイベントを行いました。昼食には、ひなちらしをお召し上がり頂きました。おやつには、甘酒、ひなカステラ、ひなあられをお召し上がり頂きました。 ・ 3月12日 おこしもの作りをしました。利用者様に鯛・車・桃・のしの木型から選び筆で赤や青などの色付けをして頂きました。おこしものはおやつ時に皆様美味しそうにお召し上がり頂きました。 ・ 3月31日 昼食時にお花見をしました。桜の開花状況により、例年より早く行いました。昼食メニューは、お寿司、なすの煮びたし、吸い物をご用意させて頂きました。皆様、桜をご覧になられながら、沢山お召し上がりになられました。食事後、桜の下で写真撮影をしました。 ・ 4月9日 誕生日会(2名)がありました。おやつ時にどら焼き、わらび餅やカナッペなどをご用意させて頂きました。皆様に、お祝いさせて頂き楽しい時間をお過ごし頂きました。 <p>2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月3日 ひなまつりのイベントを行いました。昼食には、ひなちらしをお召し上がり頂きました。おやつには、甘酒、ひなカステラ、ひなあられをお召し上がり頂きました。 ・ 3月16日 おやつ時に誕生日会がありました。皆様に、お祝いをさせて頂きました。誕生日の方もケーキをお召し上がりになられながら、ニコニコとお過ごし頂きました。 ・ 3月30日 昼食時にお花見をしました。桜の開花状況により、例年より早く行いました。昼食メニューは、お寿司、天ぷら(春菊・タラの芽・さつま芋)、吸い物、ノンアルコールビールをご用意 	

意させて頂きました。皆様、桜をご覧になられながら、沢山お召し上がりになられました。食事後、桜の下で写真撮影をしました。

② 行事予定

1号館・2号館

母の日・日中想定避難訓練

③ 意見照会

◆ご家族様

- ・コロナ渦で大変お忙しいと思いますが、散歩とレクリエーションを引き続き行って頂くようお願いいたします。

⇒散歩についてですが、毎日利用者様を順番に散歩を続けています。コロナ渦の為、以前のような外出行事が出来なくなっていますが、散歩をすることで、下肢筋力の低下を防ぐのがあります。外気に触れることで、一番は気分転換になればと思います。

また、レクリエーションについても、身体を動かすものとして、軽体操、テレビ体操、失禁予防体操やボール投げ等があります。

レクリエーションの一例ですが、歌、なぞなぞ(クイズ)、いろは歌パズル、紙芝居等、職員により様々なものを提供し、利用者様にお楽しみ頂けたらと思っています。

◆瀬戸市役所高齢者福祉課様

- ・徘徊する利用者がいた場合、どのように職員内で情報共有をしていますか。また、徘徊する利用者に対して、アプローチを行うことで改善した事例はありますか。

⇒情報共有についてですが、町屋でも徘徊される方でエスケープする可能性が高い方が入居されています。職員内では、所在の確認を常に把握することはもちろんですが、万が一、エスケープがあった場合は、同一法人と関係法人内の他施設に協力してもらえるように、迷子札(写真や名前、情報等)を各施設に対して情報共有をしています。

次に、徘徊の方へのアプローチについてですが、徘徊の事例に対して特に注意していることは、まず利用者様が椅子から立ち上がられたり、歩かれ始めた時の職員の声の掛け方です。「立たないで!」、「座っていて!」などの声掛けは、スピーチロックに当たり身体拘束になります。そのような声掛けや遠くから言ったりせず、近くに駆けつけ「どうされましたか。」などの声掛けをするように指導しています。

入所後、環境の変化で一時的に出る方、認知症の症状の進行により徘徊が出る方など、原因はいろいろあると思います。徘徊されても、職員が付き添い話をさせて頂くことで、次第に慣れて落ち着かれることができました。

◆やすらぎ地域包括支援センター様

- ・お世話になります。特に意見はありません。コロナ感染予防対策を十分図

りながら対応して頂ければと思います。今後とも、宜しくお願い致します。

⇒今後も、感染予防をしっかりと行っていきます。

④ 身体拘束適正化検討委員会

- 資料を用い、開催

◆まとめ

今回は、「徘徊による身体拘束」をテーマにさせて頂きました。

まず、徘徊とは認知症の症状 BPSD（行動症状）ですが、徘徊が頻繁にあると玄関にカギをかけて出られなくなったり、居室から出られなくなったりする身体拘束が考えられます。

町屋の玄関は、日中はカギを掛けていませんが、夜間は防犯の目的でカギを掛けています。玄関の出入りは音が鳴る様にしており、利用者様が出て行かれたことをいち早く職員が気付けるようにエスケープの対応をしています。居室の窓も、利用者様が自由に開けられるようになっています。

徘徊時における身体拘束を行わない対応として、徘徊とはその利用者様にとって「目的があることで歩いている。」と介護職員が認識するようにしています。利用者様によって、さまざまな原因で歩かれているかと思えます。場所、状況がわからなくなっていたり、家族を探していたり、パットが濡れていて気持ち悪いがどうしたらいいかわからず歩いているなどと、人によってさまざまな要因、原因はあると思います。

徘徊がある時は、利用者様はさまざまな不安や、心理的ストレスを感じている背景もあると思います。町屋では、職員が、「なぜ、歩いているのか？」を考えて、個々にあった対応が取れるようにしています。表情から読み取り、声を掛けお話をさせて頂くことで気持ちが和らいだり、寄り添って一緒に歩くことで落ち着かれたりすることもあります。

また、臭いにも気をつけて、トイレ誘導させて頂くこと事もあります。

これからも、身体拘束を行わず、個々にあった対応が出来るように心がけていきたいと思えます。

⑤ その他

愛知県からの要請により、介護従事者対象の PCR 検査を3月中旬に全職員行いました。検査結果は、全員陰性でしたので、ご報告させて頂きます。